

宝雪

在京古高同窓会
会報

第19号

〒150 東京都渋谷区
道玄坂1-15-3
プリメーラ道玄坂110号
信陵会館内
在京古高同窓会事務局
☎ (03) 3462-1225
FAX (03) 5489-1358
印刷：(株) ケーヨー

母校百周年に寄せて

在京古高同窓会会長 伊藤 宗一郎



会員の皆さん、暑中お見舞い申し上げます。日頃は同窓会活動に色々とお力を頂き、ありがとうございます。

また私事ではありますが、昨十一月に衆議院議長に任じられ、その後各地で就任祝賀会を催して頂きありがとうございます。

さて、母校は今年の五月三日で丁度百を迎えました。十一月六日には、盛大な記念式典が母校で催される事になっています。一生に一度、いやめつたに巡り会うことのないこの祝典に、在京古高同窓会の皆さんと一緒に参加をし、共に祝いたいものです。

創立百周年記念事業協賛会では、引き続き募金活動を行っています。在京古高同窓会としても全面的に協力を

していききたい。従って、今回としても拠金をする事にいたしました。まだ拠金の滞りでない会員の皆様には、応分の拠金を是非して戴きたくお願いを申し上げる次第であります。

本年母校で、百周年目にしてやっと安堵したことが二つありました。ひとつは、今年三月一日の卒業式で、二十年前に日の丸と君が代が復活したことであり、もうひとつは受験生の推薦入学が実現し、入学出願者の定員割れを防ぐことができたということであります。これは、前校長高橋健三氏(三〇卒)の努力に負うところが大きく、紙面をお借りして敬意を表したいと存じます。

かつて大崎大学とも言われた我が母校に、優秀な生徒が集まらなくなったという現象は、理由は多々あるにしても当然あたりまえのことが、出来ていなかったことに起因すると思うからであります。

現在、生徒の励みにもなればと、在京古高同窓会として生徒会の執行部、文化部、運動部で活躍した人を対象に「生徒会功労賞」の表彰制度をつくり、百周年を機に始めようとの提案があります。

在京古高同窓会は、平成五年度以来総会を夏に開催するようになってから

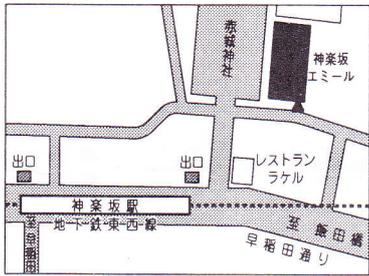
—在京同窓会メモ—

- ・信陵会館は井の頭線渋谷駅線路沿い。
- ・会館管理は壽田さん。同窓会関係者は常駐していませんが、対応いただけます。
- ・会計年度は6-5月。年会費2000円。
- ・振替用紙を同封しましたので会の運営のため、是非納付をお願いします。
- ・会報第20号原稿、広告受付中!

—お知らせ—

二平成9年度在京古高同窓会定時総会二

- ・日時：平成9年7月26日(土)
14:00~17:30
- ・会場：神楽坂「エミール」
- ・会費：8,000円
- ・講演講師：大場和夫さん(昭和38年卒)
(紹介は4頁)
- ・交通案内：地下鉄東西線 神楽坂駅 徒歩2分
有楽町線 飯田橋駅 徒歩13分
JR中央線 飯田橋駅 徒歩13分



神楽坂エミール
財団法人 東京都福利厚生事業団
〒162 東京都新宿区赤城元町1-3
TEL 03-3260-3251

同期生を誘っての出席を！総会案内は別紙です。(事業委員会)

五回目を数えることになりました。又総会の会場も、今年は新しい会場に変わります。地下鉄東西線の神楽坂駅から徒歩二分の、東京都福利厚生事業団施設「神楽坂エミール」です。

また当会の運営については、委員会制度を有効に活用して、組織・事業・広報・財務の四つの委員会を柱に、事務局の強化を図っていきます。

なお、今回の総会は役員改選期でもあるので、総会後の新役員体制に期待したい。

終わりに、今後とも本会へのご支援とご協力を下さいますようお願いを申し上げます。皆様のご健康とご繁栄を衷心よりお祈り申し上げます。

古里、大崎耕土は緑のジュウタンで覆い尽くされ、大変爽やかな季節です。在京古高同窓会の皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。今春古川高校に着任した校長の久保田齊でございます。高橋前校長先生同様、宜しくお願い申し上げます。

出身は石巻ですが、若い時小牛田農林に九年も勤めましたし、愚妻が古川出身なので当地は少なからずゆかりのある地区です。前任校長は、高橋前校長先生同様で、飯野川高校でした。その他県教委教育研修センター、米山高教頭、仙一高教頭を勤めてまいりました。

さて、皆様の母校古川高校は、今年創立百周年のおめでたい年を迎えました。十一月六日に記念式典を実施します。是非参加下さいますようお願い申し上げます。

また、皆様の御援助のもと、沢山の記念事業が進められています。立派な同窓会名簿は既に完成しております。県の御配慮で第二体育館が県内のどの学校より先に完成し四月から使われています。体育館やプールの大改修も間もなく始まります。校史「古中・古高

学校長 久保田 齊

百年史」も十月に完成予定です。残るは記念事業の目玉とも言えるべき文化部活動センターの着工を待つのみです。今は協賛金の呼びかけを再度行うべく、世話役の方々にご尽力頂いているところです。

恒例の築高定期戦も38回を数え、四月二十八日築高会場で開催されました。昨年まで五連勝中という事で、初の六連勝と期待しましたが、生徒は慈悲深く勝ちを譲って来ました。通算で古高の26勝10敗2分の成績です。

運動部は、総合体育大会目指して練習に一段と熱が入っています。今年はソフトボール、スキー、ラグビー、卓球等で県強化指定選手の生徒が居て期待できそうです。過日の地区総体剣道個人で古高生が小牛田のエース二人を連破して優勝する大活躍でした。

文化系クラブでは、将棋部が全国大会出場を決めています。将棋は昨年の新人全国大会個人戦に二人出場し、一人は全国ベスト16に入るなど、良く古高魂を発揮しています。

今春の進路状況は別表(4頁)のとおりです。生徒の高いレベルでの目標達成を目指し、叱咤激励すると共に、指導法やシステムも常に工夫改善し、成果につなげたいと思っています。その一環として、「古高未来ビジョン委員会」を組織して改革に取り組み始めたところです。ご期待を頂きしたいと思います。

最後になりましたが、在京古高同窓会の皆様には、いつも母校に対し、物心両面の熱いご支援を頂いておりますこと心から感謝を申し上げます。簡単ではありますが、着任のあいさつとさせていただきます。

母校と私

一冊のアルバムから

昭18卒 渡辺三男

いま、私の机の上に一冊のアルバムがある。色は茶色。古びてかすんでいる。結んである紐は、擦り切れて二ヶ所のうち一ヶ所は、完全にとれてる。アルバムのへりは、鼠にかじられたのであろうか。三ヶ所ほどえぐれている。表紙の右下に「二六〇二」、昔でいう紀元二六〇二年のことであらうか。左上に稲穂に囲まれて「中」の字がある。旧制古川中学の記念アルバムである。

私どもが生きてきた道、卒業して上の学校に行ったはいが、勉強したのは一年だけ。あとは、勤労奉仕、勤労動員の連続。あぐくの果ては爆撃、艦砲射撃、機銃掃射とあらゆるものを受け命からがら郷里に逃げ帰った。保存していた資料は、すべて散失した。不思議にも、この一冊だけが残っている。私の記憶を呼び戻す唯一の道標である。

もう半世紀を超え、ほとんど忘れさられている記憶の中でただ一点、五年間無欠席で学校に通ったということのみが強烈に残っている。当時の気候特に冬の厳しさは尋常ではない。吹雪のときは今の比ではない。第一雪の量が違い、車はおろか自転車もまかない。たのみは、二本の足だけである。朝薄暗いうちににぎりめしを腰に結び、目も開けられないほどの吹雪の中を一里半学校に通ったのである。それが五年間のうちに何回もあつたのである。なぜ、一日も休まずできたのであろうか、今考えても不思議でならない。東北人特有のガンバリ精神が血肉の中にあつたのであろうか。

そういえば当時の校風は、へ質実剛健であつた。それがその後の有形無形の財産を作ってきた素地のような気がしている。

古高の中に、今も息づいて生きているのであろうか。...

昭20卒 横山榮治

古川尋常高等小学校より憧れの旧制古川中学校に希望に胸を膨らませて入学したのは、昭和十六年四月であつた。入学時の校長は相原賢蔵先生で、立派な訓示と祝辞は厳肅且つ荘厳で胸をうたれ、感心した。

当時の社会情勢は、昭和十二年七月に日中戦争へと大陸戦局が拡大し、国民が戦争目的達成のために一致協力戦時体制を進めていた時代であつた。昭和十六年十二月八日、日本軍はハワイ島真珠湾を急撃し、米・英に宣戦布告をした。学生帽は戦闘帽に白線と徽章カバンはランドセル、服はカーキ色の戦時色一色、靴にゲートルを巻いての登下校であつた。

教科面でも、一般教科は勿論体操のほかに教練武道が特に強化され、夜間行軍と称して王城寺原の兵舎まで行軍して宿泊をした。又、全校生徒の十マイルマラソンも毎年行われて体力の増進に努めた。しかし、その時代においても、友人宅でベーターベン・モーツァルト・パツハ・シューベルト等のレコードを聴いたり、囲碁を教へてもらったり、本を読んだりして青春を語り合ひ、楽しい一時を過ごした。昭和十八年(三年生)の頃、勤労奉仕作業が始まり、池月で暗渠排水工事作業。大変な重労働で苦しい作業であつたが、宿泊先の家族の皆さんにやさしく、いろいろもてなしていただいた。

四年生の昭和十九年六月には仙台の本山製作所工場に動員され、旋盤工となつて、高度計部、青銅製の精密を要する製品がなかなか思う様に削られず苦勞したが、熟練工員さんに教えられ、だんだんできるようになつた。本山での生活は食物が少なく、又、休みも思う様にならず、代表で社長宅に直接交渉にも行った。

昭和二十年三月二十四日に第四十四回(五年生)と第四十五回(四年生)の私達は四十五回卒業で、四年生と五年生とが同時に卒業式を挙げた。私はその後盛岡工業専門学校(現岩手大工学部)に入り、昭和二十三年三月卒業、四月から古川工業高等学校の教諭となつた。二十九年までの六年間は何かと母校古高に行く機会もあり、恩師の先生達にお会いしてよく懇談した。古工を退職して機械の道に進み、ポンプメーカーから水道・下水道事業の設計・施工や企業活動を長く経験し、四十数年水の関連に携わってきたが、この二月に退職。その後関連会社でお手伝いしつつ、在京同窓会では何かと会合に出席し、同窓生の方々と旧交を温めております。

母校のますますの発展と、同窓生の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

苦勞したが、熟練工員さんに教えられ、だんだんできるようになつた。本山での生活は食物が少なく、又、休みも思う様にならず、代表で社長宅に直接交渉にも行った。



昭27卒 種村雄一

カーン、わあっ... 大きな歓声が響き、紺碧の空に白球が舞う。例年、夏の甲子園大会県予選がスタートすると、私の血は湧き肉は躍る。そして、我が母校古高野球部に輝かしい一ページを画した若かつた頃をすぐ思い浮かべる。

時は昭和26年盛夏、全国大会宮城県予選で、遊撃手四番バッターでプレー

対築高定期戦の実現

昭32卒 佐藤公哉

した「あの試合」「あのシーン」は生涯忘れられないものである。準決勝で強豪気仙沼高校とあいまみえ、死闘の末二対一で辛勝したあの試合であり、二次予選の東北大会(福島県営球場)への出場切符を獲得した貴重な試合であつた。

初回到連続三塁打で一点先行、なおも一死ランナー三塁のチャンスに私はボックスに立つた。ベンチからはスクイズの気配も無く、私は「ようーし、好球必打だ！」と叫び燃えていた。初球の好球を見逃さずはじき返すと、三遊間の真中を破るヒットとなり、結局これが決勝点となつた。

また、この試合の幕切れ九回二死一塁で打たれたのが二遊間を抜こうとする強い当たりのゴロ。横飛び、差し出した私のグローブの先つちよにボールが半分ひつかつてくれた。二塁ベースをこれ破ればかりに踏んづけたが、あの感触を私の足はまだはつきり覚えている。

この勝利の勢いで、翌日の決勝戦もエース佐藤昇の好投で快勝し、念願の県大会初制覇の偉業を成し遂げることができた。

野球部生活は、華々しく楽しかった思い出ばかりでは決してない。小石の多いダイヤモンドのならし作業、日が暮れボールが見えなくなると走塁の特訓、排球部や陸上競技部に気兼ねしながらの打撃練習、映画娯楽の誘惑との対決、自宅での夜更けの勉強と睡魔との戦い、糸切れ練習ボールのつくり針仕事なども、苦しい思い出の一コマとして心に残る。

鈴木進主将以下まとまった素晴らしいナインであつたが、二郷、佐藤(義)、菊地の球友がすでに他界し、共に昔を偲ぶことができないのはとても淋しい。

昭和三十一年九月一日、例年なら二百十日の台風模様なのに、大崎耕上はよく晴れ、実り始めた稲穂が風に揺れていた。この日、念願の古高対築高の定期戦が開始されたのである。第一回目の会場は古高。

築高約九百名の生徒を迎えて、古高小坪洋校長のあいさつ。「伝統を守り、新しい一頁を校史に残そう」。また私も生徒会会長として「この時こそ、灰色の高校生活から脱皮しよう」とあいさつで呼び掛けた。

白いワイシャツ姿の両校生徒全員、約千八百名が母校の校庭に立ち並んだ様子は壮観だった。

定期戦といえは、当時は仙台一高対二高と相場が決まっていた。しかし、われわれは古高の分校として発足した兄弟校築高との親睦の契りや交流の場としての定期戦がないのが不思議だと考え、県北の雄である両校の定期戦の実現にこぎつけ、野球、排球、庭球、柔道の四種目にわたる熱戦が展開された。

ブラスパンドがないため、応援は拍手と野次。熾烈を極める応援ぶりだった。野球では、三塁側に陣取つた築高応援団が陸羽東線を走る汽車を見るために振り返る。そのたび毎に、「汽車も見ただぞ！」という古高応援団の野次に一同大爆笑した記憶がある。

結局、古高は野球、排球、庭球に勝ち、築高お家芸の柔道に敗れて三対一で第一回定期戦に勝つたのである。

百周年に寄せて

実はこの定期戦、私が生徒会長に立候補した時の四大公約の一つであった。準備校化された古高。東北大に入学できなければ人間ではないといった雰囲気学校の在り方に批判的であったことが実現のきっかけとなったのである。それゆえ、私は対策高戦のほかにも①五月には全校クラブ活動参加②六月に全校生徒による県高校総合体育大会応援への参加③十一月の文化祭における新応援歌「凱歌」の発表、という四大公約を果たしていった。ちなみにこの年の六月には、当時読売新聞記者だった伊藤宗一郎先輩が訪ソし、学校で「ソ連より帰りに」と題する講演が行われている。「ソ連ではあの時に新聞紙を使っている」と話されたことを今に鮮明に覚えている。

また、われわれの学年は、東大に三名、東北大をはじめとする国公立大学に約五十名、そして有名私立大学に続々と進学した。就職でも銀行を中心とする有名企業に進んだ。スポーツでは、各種目とも県大会で事実上の決勝戦と言われるほどの成績を残し、悔い無き高校時代を過ごしたのである。

紳士の素養

昭36卒 佐藤文彦

我が古高時代という昭和33年からの三年間で、まさに国威高揚となった「東京オリンピック」の数年前で、高度経済成長路線が走り始めた時でした。古高では当時、音楽・美術そしてドイツ語が必修科目で、「およそ受験や社会生活に直接関係しないと思われるこれらを何故に学ぶのか？」と疑問を持ちつつ、一方で、中学校とは全く異なる環境を意識させられたのもこれらの授業でした。殊に、ドイツ語は、よそが知らない異国の言葉を俺は知っているんだーと（実際に

はごく初歩の知識で）なかつたのに得意になったものでした。

数年前、今や壮年期となった同期生の集まりがあり、三十年前の古高の音楽の時間に覚えた「カロミオベン（イタリア歌曲）」を参加者全員が原語で口ずさむ機会がありました。と、同席の他のグループから「えっ！高校の時に習ったんですって！しかも原語で？なんと素晴らしい学校じゃないですか」と賞賛と喝采が起ったのです（ちなみに先日のテレビで宝塚歌劇団へ入学を目指す娘さんの歌唱力試験の様子が放送されていましたが、カロミオベンが歌われていました。都会の、東京の高校生も持たなかつた素養を古高生は当然のこととして身につけていたのでした。皆の母校への思いがまた一層燃え上がったことはいまでもありません。そしてこの時、芸術科目や第二外国語の必修は、実は深遠遠慮があつてのことではと気付いたのでした。

中学とは全く異なる環境を意識させて「大人の感覚で世間を見てごらん」という教をしたかたつたのではないか。そのため、「紳士の素養」が庄子先生の音楽、穴戸先生の美術そして高橋（養）先生のドイツ語ではなかつたのか。さらにこれら教科の先生方のユニークさも輪をかけて強烈な思い出として残っているとすると、古高という学校は、なんともたまげた学校だったんでねえべが。

現在思うこと

昭51卒 菅原博之

大崎最高学府を築立って早や二十年を過ぎ、三十路から四十路へと人生八十年の折り返し点にも達しようとしているところ、古高時代に改めて懐かしさを感じる。大崎耕土で培った人間性、質実剛健、直言実行、至誠人情、大崎の風土そのものである。我々も、そして先人にお

いても後輩においても「ここ（大崎の土）から生まれ、またそこに帰る」、自然と人間の創り出す地域的特性こそ、何にも増して我々にとつて貴重な他との明らかな違いである。

宮城県古川高等学校は県下屈指の伝統校として百周年を迎え、これまで幾多の人材を輩出してきたことも事実である。学業、スポーツ、地域のボランティア活動等でも優れた人物が多く、大崎のリーダー格、県内外、国中でも豊富な人材が出ている。数え上げれば切りがないほどである。

入学当時「古高は学問のみを教授せず」と教えられていた通り、勉学はあまりした覚えはない。その中であつたスポーツ、地域活動、愛すべき悪友らとの切磋琢磨に勝るものはなかつたのである。一人一人が何かに向かつて輝いていた。独特の個性と特技を持って我々が互いに助け合い、競争しあつてきた。精一杯青春を生きていた。当然、失敗も悩みも一つの大きな何ものかに包み込まれているという学風があつたのは、良き師がいたからである。その中に名物と言われる先生が数多くいた。ドイツ哲学者、古典の大明神、善科の大武道家、耕土史家、大崎土生物学者、郷土音楽家、炎の画家、ミスター古高等学ぶものが多く、人が人として育つてゆく教育、出会い、巡り逢い、分かち合い。共に学び、実行し、思索し、自分の信ずる道へ一歩でも近づこうと努力していた。

当時は、生きている力が倍々に増幅していた気がする。現在はそれがより小さく弱くなつてしまつていく。もう一度あの青春の志を再生し、夢と希望を持って日々精一杯生きられたらと思う時、同窓会の人々との出会いに勇気づけられるのは母校（同胞）という名の古高がしみてしまつていくからだろう。古高よ、魂に輝き続け！

勤務を振り返つて

昭30卒 高橋 健三

今春三月、三十有余年の教員生活を定年退職致しました。同窓生の皆様より大変お世話になりました。改めて厚くお礼申し上げます。

古高に赴任する際、教育長より古高を「何とかシテケロ」と云う同窓の誼もあり懇願されての赴任でした。赴任した年は創立以来（？）未開の定員割れの年でした。大崎地方も少子化が進んだといえ、この二次募集には先輩の皆様も驚嘆されたことと思います。近年私学指向が強くなり、古川近辺においても新幹線を利用して仙台市への流出が激しいからです。女生徒も含めて朝の新幹線は東京の日電のような混雑を呈し、JRを喜ばせております。スポーツの堪能な生徒のみならず、成績の良い生徒達の敬遠が古高活性化にとつて最も痛い処です。何故高い交通費と授業料を負担してまで流出するか、何故地元の高校が大崎県民の期待に応えられなくなつたのか、魅力が無くなつたのか、苦慮しながらの赴任でした。

「・・・そんなことを議論するより俺達の成績アップや進路について、もつと真剣に考えてくれ」と云つた意見を述べる、また、「古川商業の大学合格者数や築館高校の公務員内定者数に比べ古高は格段に遅れをとっている・・・」。これは「大崎タイムス」の記事の一部である。新聞であるから誇張もあるろうが、社会情勢も政治経済も大きく変貌した現在、中学生や父兄教育に対する要求も変化していることは確実で、そのニーズに比べられる高校だけが生き残れるものと思つております。新聞で指摘されるまでもなく、中学生や父兄の学校に対する期待を真摯に受けとめ改革に努めました。最も困難なこ

とは親方日の丸の商売をしている教職員意識改革でありました。つくづく、教育現場の閉鎖性・保守性には苦慮しました。また在任中出来ず、県民に申し訳ないと思つていることに「主任制」があります。これは経験豊かな教員が中心となり、各学年、各部署で生徒のため効率よく指導することを主旨として設けられた制度であり、企業・官庁・小中学校などすべて主任・係長・課長など制度として一般化していることはご存知の通りであります。古高では教職員を差別するという理由でこれを認めず、その部署の代表を「窓口」と呼び、その窓口も輪番制をとり毎月交替するという非能率的な教職員組織でした。一日も早く他校並に主任制を実施するよう新校長に引き継ぎました。同窓生の皆様からのご支援をいただきました。ご存心ありがとうございます。父兄からも信頼されてこそ教育効果が上がる。学校は生徒が主人公であり、生徒のため機能しなければならぬことは申し上げるまでもありません。

21世紀の日本を眺みながら、教育界も種々改革を実施しております。母校古川高も百周年記念を節目として、県民に信頼され、人材が集まるよう先ずは実績作りに努めなければと考えます。今年度より推薦入学を実施し、その主旨を各中学校に説明し、人材集めに乗り出した処です。また県の方針もあり教職員の人事刷新を大幅に行い、古高が中味から変わることを願つております。

教育長（五回卒）のご努力もあり、県内第一の教育環境が整いました。近年中に必ずかつたの栄光の古高に变身することを確信しております。各中学校からの評価もやつと右肩上がりになり、大学進学もスポーツ活動も往年の古高の活動が復活しようとしております。そのため、理数科を新設したりして、時代に対応した教育内容を思い切つて実施すべく動き出しました。

先輩の皆様も母校古高を厳しい目で見守つて下さるようお願いいたします。必ず県下の名門古高に变身すべく私もOBの一人として応援してまいります。

4月17日現在

大学合格者	現役	過卒	合計
国立大学	19	20	39
公立大学	0	4	4
国公立短大	7	4	11
私立大学(延人数)	176	242	418
私立短大	2	0	2
文部省所管外の大学	1	0	1
平成9年度の合計	205	270	475
平成8年度	222	279	501
平成7年度	139	284	423
平成6年度	159	302	461
平成5年度	181	261	442
平成9年度就職者(公)	5		
(民)	6		
			11

宮城県古川高等学校進路指導部

総会講演講師紹介

大場和夫さん。古川市千手寺生まれ。昭和三十八年、古川高校、同四十二年、法政大学文学部卒業。同年神奈川県教員として採用され、船越小学校に赴任。昭和四十五年より三年にわたりペルー日本人学校に勤務。現在、横須賀市立大楠小学校校長。教員生活三十年。

昨年大場さんに講師としてお願いした後に、偶然にも世界を震撼させたペルー人質テロ事件が発生、ご存じのような結果になった。そこで、大場さんにはペルーでの教育者としての体験からペルー人の見る日本、ペルー移民の見たペルー及び日本、そして日本人が見るペルー等々語ってもらふことにした。あらためて海外に目をやり見聞を広めるよい機会。同窓生、特に大場さんと同期の皆さん！多数のご出席を期待。(事業委員会 佐藤公哉)

本部同窓会会長挨拶

中42回卒 野村 喜太郎

在京古高同窓会の皆様、お元気でお過ごしのことと存じます。夏の総会も五年目を迎えて参り、年々盛大に開催されて居りますことお祝い申し上げます。

去る五月二十五日貴会副会長の春田 紘輔氏、事務局長の佐藤廣氏のお二人が母校を訪れ、古高並びに同窓会へ激励のお言葉を頂き感謝致して居ります。その折の事ですが、在京同窓会として在校生の奮起の一助になればと優秀な生徒へ賞を出すことの打診があり、学校長も喜んで受諾されましたので、これ亦厚く御礼申し上げます。

今秋11月6日(木)は古高百周年記念式典が母校体育館を会場に挙行されます。百周年を迎えるに当たり県当局にお願い致しました校庭の拡張、体育施設の建設は前鈴鴨教育長始め関係各位のご努力により達成され、四月より剣道、柔道、卓球等の部活動に使用されて居ります。同窓会の記念事業として文化ホールの建設を掲げて居りますが、これは生徒の演劇部、音楽部の活動する空間がなく部活に支障を来たして居りますので、是非完成させたく皆様からのご協力を期待致して居ります。今の処目標額に遠いので、せめて式典の前に発注できるように願っております。次第です。未だの方はこれを期によりしくお願い致します。

「古高百年史」の発刊につきまして、教職員編纂委員会を中心に原稿をまとめ、印刷にまわして居り、五百頁位になります。十月下旬に発刊を予定しておりますので、その折には多くの同窓生の方々に購入していただければ幸いです。百周年記念式が終了し、投落し

た頃、中鉢泰平氏のお世話でハワイ旅行の計画もありますので同窓の方々もゆつくり記念旅行を楽しんでいただければと思っております。

伊藤宗一郎会長を中心に在京同窓会の益々の発展をお祈りし、皆様のご期待に添えるよう仕事を進めて参りますのでよろしくお願ひし、挨拶と致します。

『古中・古高百年史』の発刊について

今年、古高は創立百年の大きな節目の年を迎え11月6日の記念式典をはじめとして数々の記念事業が推進されております。そのひとつとしての『古中・古高百年史』の編纂作業が十月末の発刊をめざして現在進行中でありまして、一九九二(平成四)年以来、本校職員が編纂委員となり編集方針の検討、資料の収集・整理、原稿執筆などに五ヶ年を費やしてまいりました。

次に百年史の概略を紹介いたします。

編纂方針

過去に発刊された『六十周年記念誌』(一九五七年刊)並びに『古高の七十年』(一九六七年刊)を基礎として一部内容の補充を図り、七十周年以降の校史を新たに加え、記録性を重視して、各時代における教職員と生徒の姿を浮き彫りにした百年の校史をまとめることになりました。本校には幸い開校以来の貴重な記録が多く保存されており、交友会誌、学校新聞、回想文集などの資料も多く活用できる利点を生かし、さらに戦後の運動部の活動については当時活躍した選手、顧問の先生方より新たに多くの回想文の寄稿をいただき編集いたしました。

第一部 写真で見る古中・古高の構築 五〇頁

お知らせと募集

事業委員会 佐藤 公哉
小杉 誠輝
中鉢 泰平

募集定員 先着五十名
費用 三九、五〇〇円
締切 8月15日(金)

第二部 本文 四〇〇頁

明治・大正・昭和・平成の四編で構成明治時代は創立の沿革、教育環境の整備、生徒の気風、校旗・校訓・校歌の制定、学友会活動、卒業生の動向などが主な内容。

大正時代は創立二十周年、修学旅行、同盟休校などが主な内容。

昭和時代は戦前の軍国主義体制下の教育の姿。戦後の混乱期の中での民主化教育と運動部の黄金時代、文化部の活発な活動期。四十年代の生徒会活動と服装自由化の動き。教育課程改定、諸制度の見直しに伴う学校の変革。高体連での古高生の活躍などが主な内容。

平成時代は男子の家庭科履修。宮城インターハイと生徒の活躍。国際化教育の実践。

古高の未来ビジョン等が主な内容。

第三部 年表 二〇頁

第四部 資料 三〇頁

旧職員一覧、定期戦績、古高の樹木の歴史と現況、諸規定、応援歌、その他。

発行部数 三五〇〇冊
頒布価格 三六〇〇円

(文責) 校史編纂委員会委員長 門脇祐一

古高創立百周年記念 在京古高同窓会みちのく親睦の旅

月日(曜)	都市名	発着	交通機関	現地時間	日程
1 平成9年 11月5日(水)	東京 古川	発着	新幹線	9:00 10:00	東京駅「銀の鈴」集合 東北新幹線MAXやまびこ41号にて古川へ (上野発10時06分、車内にて昼食) 到着後、陸羽東線にて千年の歴史を持つ湯治場紅葉の鳴子温泉郷へ
	古川 鳴子温泉	発着	陸羽東線	12:32 13:24	到着後、ご希望により鳴子峡から中山平の観光(実費) 創立百周年記念前夜祭及び親睦会(古高同窓会有志を交えての夕食会)
				18:00	
2 11月6日(木)	鳴子温泉 古川	発着	ローカル列車	8:00 9:12 10:00	朝食はホテルにて 母校訪問(創立百周年記念行事参加) 終了後解散、各自自由

《費用概算・内訳》¥39,500-先着50名様

- 新幹線往復(東京-古川間)及び普通乗車券往復(東京-鳴子温泉)。但し、帰りは自由解散故、古川-東京間は自由席特急券。
- 11月5日の昼食
- 宿泊代(1泊2食)
- 創立百周年記念前夜祭及び親睦会費用
- 記念品及び記念写真代

※なお、ご夫婦での参加の場合、別途個人部屋代¥10,000。

《連絡先・申込先》
(株)インターナショナル ヒューマン トラベル 中鉢 泰平
〒160 東京都新宿区西新宿3-5-12 トーカン新宿第2キャスター1F
TEL & FAX 03-3345-6035

同窓会広報委員長 故尾崎章さんを偲んで

昭和31卒 浅野 平男

暮れも押し詰まった平成八年十二月三十日の夜半に同期生の菅原隆郎さんから電話があり、尾崎章さんが急逝し大晦日に火葬に付されると知らされる。呆然となり受話器を取り落としてしまった。故片平司朗さんに続き二ヵ月ほどの間に親しい友人が彼岸の彼方に行ってしまうとは・・・

思い起こせば尾崎章さんは古川高校時代の一年から三年まで同じクラスでした。古高時代の尾崎さんは新聞部で大活躍しており、山奥の中学校から古高に進学した私から見ると大人に見えましたし、文学的才能が溢れており、常に畏敬の念で眺めていたものです。さらに昭和三十一年に福島大学と一緒に汽車で行って受験したことも懐かしく思い出されます。しかし大学に進学してからは別々の道を歩んだので、しばらくは音信が途絶えました。

今から十年ほど前(平成元年頃)のある夜に突然、尾崎さんから自宅に電話があり「やつと捕まえることができたよ」と言われ、在京古高同窓会総会への出席を勧誘された。私も電機会社に就職し、全国の勤務先を転々としていたので所在が掴めず連絡が付かなかったとのことでした。このときも彼の真面目さと親切に感激した次第です。私もその頃から自宅も定まり仕事上でも余裕ができたので同窓会や同期会に出席し、同期生や先輩、後輩の方々と顔を会わせる機会が増え、心置きなく大崎弁を使い楽しい一時を過ごしたものです。この様な時も彼はシャイな私にいろいろと気を使ってくれたので、さらに楽しくなり、毎回出席するようになりました。

さらにここ数年は不動産賃貸業界(オフィス賃貸)に身を置くようになり、私と同業となりかつ、事務所も近い関係でチョコチョコ会い情報交換したり、酒を酌み交わしたりしました。この様な時も彼は決して愚痴や弱音を吐かないのに感心したものです。

尾崎さんを語る場合に彼の性格を顕著に現すエピソードとして次のような出来事がありました。ある年に同期生有志で那須に一泊旅行したときのことです。皆はJR上野駅に集合し汽車の中からワイワイガヤガヤと目的地に向かったのですが、尾崎さんだけは別行動を取り、黒羽、馬頭など松尾芭蕉の「奥の細道」ゆかりの名所・旧跡を訪ね悠然と宿に到着したのです。尾崎さんは雰囲気感に惹かれず自分の信念を押し通す意思の強さを持っていました。しかし決して他の人々に不快感を与えることはありませんでした。

尾崎さんはこれから同窓会活動に大いに尽力し、家族の方々とも楽しい日々を過ごす時が近いと思っておられ、大いに張り切っておられた矢先の出来事で悔やんでも余りありません。

思い出すことは多くありますが、故尾崎章さんのご冥福を祈り、筆を置きます。 合 掌

伊藤公長を

議長公邸に訪問!

4月9日、大安、晴天。午後一時半赤坂見附にて待ち合わせ、同窓会一行十四名、公邸に向かう。

約東の二時、公邸支開着。一階の控えの間で出番待ち。有名画家の絵が季節に合わせて飾られている。窓越しの広い芝生、咲き始めの八重桜。

いよいよ二階の執務室応接の間に通される。遣欧使節支倉常長、ローマ法皇に

謁見の心境も斯くや。伊藤衆議院議長登場。

就任の経緯、時局としての玉ぐし料判決、沖縄特措法の話等をお聞きする。

天皇ご一家とご夫妻での招待夕食。五月十八日の蔵王山麓での植樹祭の話題にからめ、第一回は大衡村で行われたこと、故郷古川の吉野作造記念館へぜひどうぞ、という話もされたとのこと。(このことは六月十五日放送のフジ「天皇」一家で確かめることができました)

国旗のある執務室で老・壮・成の三組に分かれての議長との記念撮影後、庭へ出て全員での記念撮影。庭園を案内していただく。閑院宮邸跡とのこと。この時の議長は次の組の接遇。分刻みという程ではないが、お忙しきはあ。三時に公邸を辞す。

この訪問には、伊藤守治先輩の労があった。興奮さめやらぬ一行は赤坂東急のティールームで、格調高くお国(日本)とも故郷ともとれる言葉の話題に一時の花を咲かせた。(訪問者：伊藤守治・多藤省徳・半田実・菅昇・遠藤惇・佐藤芳夫・佐藤廣・佐藤公哉・六戸志智・佐々木武磨・千坂孝夫・中鉢泰平・二郷英明・浅野勝弘)

なお、二郷英明さんは、5月6日に事故死された。安らかに・・・合 掌。

(千坂記)



伊藤衆議院議長公邸を訪問した際の記念写真です。

「SOS」こどもの村を訪ねて

梅雨の合間の爽やかな一日となった6月14日土曜日、同窓会の役員とその家族総勢20名が、裏高尾にある35年卒の佐々木武磨さんが理事長を務める児童養護施設「SOS」こどもの村を訪ねました。

豊かな自然に囲まれた高尾山の麓にあり、小舎制による家庭舎とグループホーム(村の外の地域社会のなかに家庭舎を作って一般社会のなかで生活させる)に子供達5、6名が兄弟姉妹となって一緒に生活をし、それぞれの家にお母さんとお姉さんまたはお兄さんとして、専門の職員の方が2名ずつ住んでいます。これは、この施設の理念である「人間が生活する基盤は家庭であり、子供が養育されるのは家庭だ。不幸にも保護された幸薄い子供達にも、実の家庭に替わる生活の場が必要だとし、できるだけ施設色を排除し、温かい福祉の心と専門的な技術を兼ね備えたお母さん・お姉さんによって、心豊かに生活できるように」との考え方からである。一般家庭と同じような住宅設備が完備した家庭舎で、保護された子供達5、6名が兄弟姉妹となって一緒に住む家庭がつけられている。子供達が負った心の傷が一日でも早く癒され、愛される喜びを得られるよう、お兄さん・お姉さんの温かい手作り料理を味わいながら家庭の躰を身につけさせる。そして子供達の自主性を伸ばし、学習の大切さ、生きる優しさと人生を切り開いていこうとする心を養育し、体得させるといふ。

梅雨の合間の爽やかな一日となった6月14日土曜日、同窓会の役員とその家族総勢20名が、裏高尾にある35年卒の佐々木武磨さんが理事長を務める児童養護施設「SOS」こどもの村を訪ねました。豊かな自然に囲まれた高尾山の麓にあり、小舎制による家庭舎とグループホーム(村の外の地域社会のなかに家庭舎を作って一般社会のなかで生活させる)に子供達5、6名が兄弟姉妹となって一緒に生活をし、それぞれの家にお母さんとお姉さんまたはお兄さんとして、専門の職員の方が2名ずつ住んでいます。これは、この施設

初代理事長、佐々木三十郎さん(旧古中19回卒)が交通遺児達を救済し、暖かい家庭で育成しよう、私財を投じて設立されて、養護施設・社会福祉法人として確固としたその基本理念とともにしっかりと受け継がれています。しかし、施設を維持していくためには国や都の補助金だけでは充分とはいえず、多くの人々や団体による寄付金に支えられていることは自明の理でしょう。ご支援ご協力の方は左記まで。

「SOS」こどもの村

東京都八王子市裏高尾町九九一
電話 〇四二六一六一一八七三三



SOS こどもの村訪問

暑中お見舞申し上げます

五月十日同期会が古川であり、引続き二次会は旅館差廻しの車で中山平温泉に一泊、木村君経営の熱帯植物園を観る。年毎に体の不調者多く淋しさ痛感。

昭12卒 佐藤 恂一

梅雨の季節になりました。会員の皆様には御健勝にて御活躍の事と存じます。扱て小生も散歩にてたり詩吟の会にてたり精を出しています。

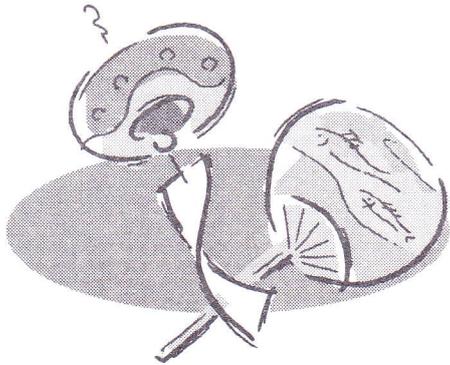
昭9卒 多藤 省徳

暑中お見舞を申し上げます。事務局で今探しています。若い人達が自分から喜んで参加する魅力ある同窓会づくりとは。どなたか知恵を借して下さい。

昭29卒 佐藤 廣

良き先輩に出会い良き後輩に恵まれることは、人生の中でも同窓会は最大の舞台であります。伝統ある百周年を心から祝いたいです。

昭37卒 中鉢 泰平



在京古川4高校合同新年会。商業の先生はスポーツや進学等の実績をもとに誇らしげに報告していた。母校は昔の財産をひたすら喰いつけているのか。

昭18卒 渡辺 三男

母校が創立百周年をとういうことで、私もその名誉を受ける一人であるべく一層研鑽を重ね、これから出てくる後輩のため役に立ちたいと思う。

昭27卒 春田 紘輔

大学を卒業した時は就職難で、今度はリストラ・政治屋も銀行屋も株屋も保険屋も信用できない。どうなっているんだ！この国は。

昭45卒 畠山 英洋

次回会報第20号は 1月1日発行!

思い出、人生、想うこと、知ってもらいたいこと、同窓会への提言等自由な内容での寄稿をお願いします。
送付先は同窓会事務局です。
又、企業広告(大一万、小一万円)、個人広告(二千元)も受け付けております。作成費は広告料収入は広報委員会の理想であり、次回発行日をお知らせし、誌面の充実をめざしております。
会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(広報委員会)

健康こそ最大の財宝であります。今夏の消暑法として、早朝ゴルフ実行、ゴルフ道具五、六本をかついで、往復三十キロ歩き、五十球打つことにします。

昭9卒 伊藤 守治

ハードボイルドの小説が好きで、北方謙三や大沢在昌のものはほとんど読みました。一日一冊のペースで本代もバカになりませんが、面白い本があったら紹介して下さい。「ハードボイルドだど!」

昭23卒 菅 昇

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。文書 図面 写真 音声 映像を簡単にCD-ROMにします。

完成図書 文字情報入出力
コピーサービス 総合印刷
CAD入出力 テレホンカード



代表取締役社長 早坂 清吉 (昭・29年卒)

本社 〒103 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191
横浜支店・千葉支店・臨海副都心営業所・八重洲営業所

日曜大工 園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事

代表取締役 佐々木 光一路 (昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
卸売部 電話 (3739) 2468
FAX (3739) 7234
不動産部 貸ビル・貸マンション

税理士 青沼康男

不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805

TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・エネルギー管理士

KGK ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構

〒221 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノウェブ 100-11階
TEL 045-451-2561 FAX 045-451-2490
自宅 〒221 横浜市旭区中白根2-22-19
TEL/FAX 045-953-3894

“人を生かし企業を活かす!!”

パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡邊 道雄

S28年卒 (鹿島台町)

本社 東京都杉並区高円寺北1-4-10
TEL 03-5343-5821

立川営業所 (0425-28-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 郡山営業所 (0249-21-0990)

くすり、健康食品のご相談は
ぜひ当店へ！

有限会社 筑波薬品

代表取締役社長 萩沢法雄 (昭和31年卒)

〒202 東京都保谷市柳沢3-2-45
TEL & FAX 0424-61-9334

建築の話が有りましたら御一報を

積水工業株式会社

S28卒 金子 康

本社 目黒 (03)3793-5711 仙台支店 (022)235-7009



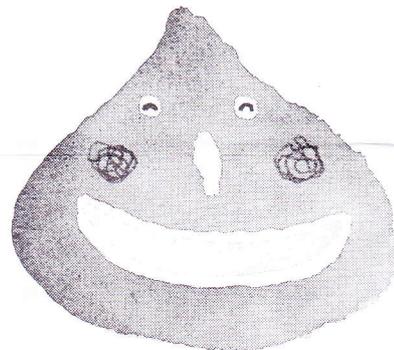
建設中の多々羅大橋 当社施工区間

技術と品質で21世紀に飛翔する



代表取締役会長 遠山仁一 (S.25卒)
東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

ほ
っ
と
、
ネ
ッ
ト
。



わ
は
は
、
ハ
ー
ト
。

オフィスビルをもっと知的に、使いやすく 工場やプラント施設を、明るく、クリーンに、効率的に すべての街を、そして、すべての人を、元気に、豊かに、イキイキと… 私たちは「電気」「水」「空気」「情報」を通して、みんなに幸せを届ける総合設備事業のクリエイティブ・カンパニー たいれにも負けない大きな笑顔で、どこよりも快適な環境を創造します

いろんな快適、笑顔でつなぐ。



三浦澄能

(昭和24年卒)

輝かしい百周年、おめでとうございます。

21世紀国際社会でのご活躍を祈って、

古川高等学校創立百周年特別企画

『同窓会 あこがれのハワイ懇親旅行』

を実施します。ふるってご参加ください。

〈古川高等学校同窓会〉

期間：平成9年11月22日 (土) ~
11月28日 (金) 1週間 (2島巡り)

〈仙台、成田、関空いずれからでも出発可能〉

費用：¥235,000- (40名様以上)



〈お問い合わせ先〉

(株) インターナショナル ヒューマン トラベル

代表取締役社長 中鉢 泰平 (鳴子町出身・昭和37年卒)

〒160 東京都新宿区西新宿3-5-12

トーカン新宿第2キャスティング1F

☎ & FAX 03-3345-6035



グランドステージ初台

エネルギー革命 /

深夜電力蓄熱床暖房

高層域に悠然と佇む総合芸術空間。



〈事業主〉
AMENITY STAGE CREATIVE
ハウジングセンター

東京都知事免許(6)第41620号(社)住宅産業開発協会会員

〒154 東京都世田谷区三宿1-13-4

センチュリー21の加盟店はすべて独立・自営です。

1995年度日本総合第1位
世界13ヶ国6000店中世界第2位

古高47年卒 代表取締役 小嶋 進 ☎03(5430)0021

古高二期会定例会開催される

四月二十五日(金)築地うしお荘にて古高二十六年卒業の同期生が十八名元気な姿をみせてくれた。来年は四月二〇日と日程を決め三時間有るを過ぎた。

(佐藤 芳夫)



古高六回卒同期会を開催する

古高六回卒は昭和二十九年卒で、会の名を「古高一九九〇」と称し、「ふるこうふくのかい」と呼ぶことにした。

時は、平成九年二月十八日(火)大宴の日に、処は秋葉原駅東口を出て昭和通りを渡った処に「軍力」という看板が目に入る筈、そこで六年振りに二十名が集まった。面々久しぶりに元気な姿を現し、消息近況など賑やかに語り合い楽しい一時を過ごした。名残尽きず二次会へと延長したが、時間切れで再会を期し散会した。(佐藤 廣)



トピックス

古川市東京事務所を開設!

四月一日から台東区上野(上野松坂屋南館の西隣り)に古川市の東京事務所(西楽堂ビル四階 TEL03-5818-6402)が開設されました。大崎圏の市町村を含めた拠点都市形成へ向けて、首都圏への活動拠点として期待されます。この駐在職員は佐藤吉昭所長(昭40卒)をはじめ、同窓の方々です。是非一度訪ねてみては如何。

古川を二訪問!

六月十九日の白石市で行われた全国植樹祭のあと、伊藤会長(衆議院議長)を案内役に古川を訪問された。金原本館「芙蓉閣」で昼食をとられ、吉野作造記念館を視察、JR古川駅から東北新幹線で帰京された。

大崎タイムス社、創刊五十周年記念式典を開催

五月二十五日古川駅前大通りの芙蓉閣で、大崎タイムス社(米城清司社長・昭31卒)の創刊五十周年記念式典が開催された。

「地方の時代を語る」ジエームス三木氏の講演の後、遠藤嘉彬氏(宮城県教育長・昭36卒)と中川俊一氏(古川市長)が加わり、シンポジウムが行われた。最後にシンガーソングライターのさとう宗幸氏(昭42卒)による歌とトークの友情出演があった。参加者八〇〇名。在京同窓会からは春田副会長と佐藤事務局長が出席。

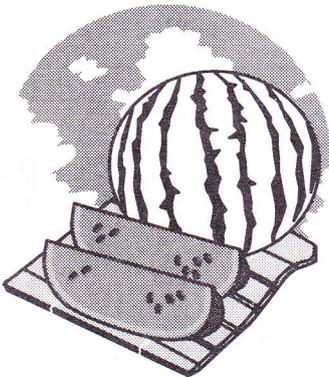
事務局談話室

(1) 前事務局長の突然の死により、事務局が渋谷の信陵会館へ移ってから、四つの委員会に助けられて、なんとか運営しているところです。まだ軌道に乗っているとはいえませんが、改善するところはあると改めたいと考えています。ご意見を下さい。皆さんの協力(参加することに意義あり)を得ながら、同窓会活動を盛り上げていきたい。

(2) 同じ学び舎で青春の一時を過ごしたという縁で結ばれている我々のこの同窓会をもっと活用しましょう。先輩には色々な方々がいます。生きる問題について、同窓の先輩達の知恵を借りるのも宜しいのではないのでしょうか。

(3) 同窓の若い人達の参加を歓迎いたします。初めて上京して来たり、転勤で東京が不案内だ、などの時は同窓会へ一報下さい。できるだけ、お手伝いしたいと考えています。

(4) 事務局の仕事を手伝っていただけよう方が居りましたら、寸時でも結構ですので申し出て頂きたいと存じます。



第四回古川市内四校合同新年会開催さる

第18号での予告通り、1月19日高田馬場「千代田平安閣」で伊藤会長の衆議院議長就任祝賀会を兼ねて、盛大に開催されました。(三〇〇名の参加) 記念講演は大崎タイムス社編集局長伊藤卓二さんの「郷土古川の22世紀」。古川及び大崎地区からの「物産展」も賑わった。

第五回古川市内四校合同新年会(予告)

日時:平成10年1月25日(日) 午後二時~五時三十分
会場:上野精養軒
会費:八千円
古高生にとっては初めての上野。上野は上京第一歩の地。幹事団体は商業と工業です。是非、参加(予定)を!



10月9日~12日
山手線大崎駅にて
大崎地方友好物産展(駅広場で)

編集後記

・総会前の発行ということが決まり、計画通り7月1日に発行でき、ホッとしている。・会報はお知らせと読ませる部分(ちよっと荒っぽい表現)になったが、強い印象を!という意味で)で成立していると思う。・会長挨拶。母校の動向。母校へ(と)の思い。今回は「母校と私」というタイトルとした。人に歴史ありの感が深い。七名の方に寄稿いただいた。・企業広告も沢山いただいた。個人広告は思いもかけぬ台風の影響か。・議長公邸訪問、SOSこどもの村見学は役員以外にも前広にお知らせできればと思った。お世話役への贈り物?・広報委員会は萩沢委員長のもと、今の所は島山、千坂の三人。夏と新年の年二回発行に向け、会員の皆様からの寄稿・投稿、掲載広告については常時受付。一層幅広く内容の濃い、面白い会報を目指しています。又、編集(広報委員会)協力者を求めています。・ケーヨーの若い飯沼さんには早朝、夕方とオーバータイムでのご協力をいただいた。又、同窓会事務所のある信陵会館(福島大経済学部同窓会館)の壽田さんには郵便・FAX便の到着確認への応対等親切にしてください。・事務所引継ぎの際に、三峯工業の新社長から「片平社長はほとんど古高のことをなされてきた」と云われたその言葉の意味するところは重い。・母校愛、奉仕の精神、名誉欲、交友欲、人生充実欲も正業の安定があつてこそ。一人一役で、会の隆盛を持続していければと思う。仕上げの段階での前校長の原稿。字数が多いだけ中味も濃く、「ヘンデル」(驚愕) (千)